

## 『なかなか遺産を訪ねる旅』の参加報告

女性委員長 藤根滝子

日 時：平成 26 年 7 月 12 日（土）

参加者：女性委員会 8 名（安藤育代・氏家香代子・大坂久子・木村千弓・齋藤由喜子・高橋みゆき・藤根滝子） 賛助会員 1 名（岩館 光） その他（ご家族） 1 名（木村麻里子）

旅の目的：建築士いわて 2014 において紹介されている旧達古袋小学校（なかなか遺産第一号予定：

ながなが系）を訪れる。あわせて、もう少し足をのばし「なかなか遺産<sup>\*1</sup>」に匹敵するであろう銀山温泉の木造 3・4 階建群（たかだかずらずら系？）を見学。

\*1 なかなか遺産 村松伸氏と腰原幹雄氏（共に東京大学生産技術研究所教授）が提唱している世界遺産にはならないけれど次世代に継承したい建築をいう。

\*\*\*\*\*

『なかなか遺産』とは？… 5 月 24 日の岩手県建築士会女性委員会総会での一関支部による『旧達古袋小学校保存活用』の発表があった。

『なかなか遺産』…説明を受けても、一関支部は頑張っているんだなあぐらいに思っていた。そこに、自分の担当している現場から「頼んでいた建材が入ってこなくて仕事ができない。」と、連絡が入った。

発表の内容は頭からすっかりとんでしまっていた。

『なかなか遺産を訪ねる旅』の直前まで、ただただ時間に追われてばかりで、今日も一日バタバタかな？と思いつながらバスに乗車。一関支部の方々が乗られてからいくらも経たないで、最初の見学地の達古袋小学校に到着。青い空、白い雲、緑の木々をバックに写真で見た長い校舎のそのままがそこにあった。



夏の空に、校舎前面に朝顔の花でいっぱいに覆い尽くされた風景が想像できた。

校舎の中に入り長い廊下に立った時には、雑巾かけ競争する子供の姿が浮かんでもきた。想像できるのだ…ここに立つだけで。実際に立ってみることで、思いは共感できると感じた。そしてこの後の建物の保存維持活動も大変だろうなと思う反面、イベントを考えるだけでワクワクしていそうな一関支部の方々の姿が見えるようだ。



次は、今回楽しみにしていた山形 銀山温泉。雪景色にガス灯の灯った夜景の旅行パンフレットの景色が思い浮かぶが、夏の銀山温泉は、深緑の木々や壁に錦絵を施した木造の三層・四層の旅館、可愛いタイルをちりばめた街路で迎えてくれた。銀山川を挟んでいることで、街並みもなおゆったり感じられるのかと、涼しげに川を泳ぐ魚を橋の上からみつけて思った。格子で覆い尽くされた、いかにも他の旅館とは異なると思える建物以外は、それこそ大正から昭和初期と思える、まさに『たかだかずら系』の木造3・4階建群の温泉街。雪景色もやはり良いだろうなあと思ってニヤリ。



はかま姿の若い娘さんが二人、目の前を通り過ぎる。お土産を買った時にもらった袋に『はいからさん通り』とあるのを見て、さっきの袴姿は、ああ大正浪漫か…と、またまた嬉しくなり一人ニヤニヤ。

楽しみにしていた温泉には50・60歳代の女性ばかり4人で混浴を占拠（貸切状態に）して賑やかに湯につかり、汗を流して気分もすっきり。湯上り後は集合時間ぎりぎりまで旅館の椅子でまつたり。(笑)

バスの中での『なかなか遺産』の提唱者の村松教授による講義もなかなか…、『なかなか遺産を訪ねる旅』もなかなか元年の年に訪ねる事が出来てなかなか、いえ、とても良い旅でした。ありがとうございました。

